

たきかわCS通信

滝川市教育委員会 教育部 教育総務課 令和3年 2月5日発行 第 25 号



～ 学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制～ 【実践例紹介】

開西中学校 1年生 道徳授業

講師 滝川教育委員会 学校運営課

主事 宮崎 隼斗さん(開西中学校 平成24年度卒業生)

開西中
掲示写真

甲子園
準優勝写真



第87回選抜高校
野球大会準優勝

～ 卒業生から後輩へ メッセージ ～
よりよく生きるために 今 伝えたいこと②

主将として甲子園に出場し、結果は惜しくも準優勝でした。



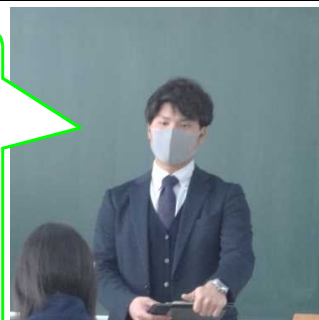
開西中学校では、卒業生を外部講師として招き道徳授業が実施されました。

開西中学校では、1月22日（金）1年生の道徳で、開西中学校卒業生 滝川市教育委員会学校運営課職員 宮崎隼斗さんを講師としてお迎えし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意しながら、授業を行いました。



宮崎さんは、学校生活や部活動、今後の進路選択での参考になればということで、大きく下記の3つの内容について話をされていました。

夢や目標に向かって、努力を続けて、成功を掴んで下さい。
応援しています。



宮崎 隼斗さん

一学年道徳科の授業に、本校卒業生で、現在、滝川市教育委員会に勤務している宮崎隼斗さんをゲストティーチャーとしてお迎えし、「友情と信頼」というテーマでお話しいただきました。
自ら希望し進学した野球の強豪校で、百人を超える部員の中からキャプテンに選ばれ、甲子園に出場し準優勝した経験をもとに、目標達成に向けて努力することの大切さや、野球以外の生活を大切にすることで、多くのチームメイトから信頼を得たことなどをお話しいただきました。部活動や生徒会活動、そして、毎日の授業や家庭学習に取り組む生徒にとって、自分自身にどう向き合ったら良いか、たくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。



1. 地元を離れ、進学した訳
2. 自分がキャプテンになったこと
3. 甲子園準優勝をした経験



1. 宮崎さんは、滝川市出身で西小学校・開西中学校を卒業された後、野球の強い高校に入学し本気で甲子園を目指したいという理由で、東海大付属第四高校（現：東海大付属札幌高校）に進学されます。

進学先の高校は、野球部に限らず、他の部活も全国トップレベルの選手の集まる学校だったので、毎日が成長するためのとてもよい刺激になったそうです。



橋本展晴校長・松本浩幸教頭



開西中学校



授業全体の様子

授業の様子

先頭に立つ人間にと
って大切なことは、①
自分が結果（行動）で
見せる②それを継続す
る③仲間とのコミュニ
ケーションをとり、考
えや目標を共有するこ
とだと思えます。



真剣に課題に取り組む様子

宮崎さんの野球に対す
る取り組みや私生活仲間
に対する接し方等大変信
頼されていたことがわか
ります。
すばらしいですね！



感想をしっかりと発表

高校生活で気を付けて
いたことは、部屋の整理
整頓、授業態度、生活態
度等を信用されるよう心
掛けました。
また、コミュニケーション
をとる際には、相手
を否定したり、価値観を
押し付けたり、干渉した
りしないよう心掛けまし
た。
ぜひ自分の可能性を信
じ、色々なことに挑戦し
て、結果を残してほしい
です。その時しかできな
い経験や気付きがあり、
自分の人生において、最
大の武器になります。



2. そして、宮崎さんは、部員117名のキャプテンになります。チームメイトから推薦された理由は、「私生活」も野球と同様に常に大切にされていたからだそうです。

しかし、キャプテンになってからは、円形脱毛症になるほど悩まれたそうです。

何度も心が折れそうになりながらも、チームをまとめるために「日本一になる」という目標を掲げ、チーム全員を同じ意識になるよう持っていったそうです。そして、全員が同じ目標に向かって私生活や野球に取り組むよう常に伝え続けたことで、チームは一体感を生むことができたそうです。

指示をされ、すぐに課題に取り組み記述できる生徒のみなさん。
力があり、とても立派だなぁとすごく感心しました。

《生徒のみなさんが感じたこと》～抜粋～

☆ あなたなら、どうやってキャプテンと認められるよう行動しますか。

- ・発言に責任を持つ。 ・周りを見て積極的に行動。 ・準備片付けをがんばる
- ・目立つアイデンティティをもつ。 ・応援部員を元気づける。 ・信頼を失わない。
- ・野球に強い心。 ・全力でアシスト。 ・話を聴きまとめる。 ・良くなるか考え行動
- ・サポート・指示だし・たよりになる人。

☆ 話を聞いて感じたこと

- ・生活を大事にした。 ・自信を持って取り組むと他の人に言える。 ・努力だけでなく一工夫
- ・みんなからの信頼 コミュニケーション ・伝えるべきことは伝えた 行動 ・努力が大事



3. その結果、「2015年春の甲子園で北海道勢52年ぶりの準優勝」という快挙を成し遂げます。宮崎さんは、甲子園で準優勝できた秘訣は3つあると話されています。

- ①基本の徹底と継続（キャッチボール、必要な場面での全力疾走、試合前の準備、私生活等）
- ②野球以外の面で相手を圧倒する（自分の発言や行動、立ち振る舞い等）
- ③「甲子園に行く、日本一になる」と本気で思うこと（毎日のイメージトレーニング）

この3つを常にチーム全員が徹底し、意識し続け、行動も伴っていたそうです。

宮崎さんの「結果は残すものではなく、ついてくるもの、結果を求め過ぎず、地道にやるべきことをやっていれば、必ず後から結果はついてくる。そのためにどう行動するか。」そして、「周りの雑念を気にせず、自分の可能性を信じ、挑戦してほしい。」という卒業生からの応援メッセージは、より身近に生徒のみなさん一人ひとりの心に着実に届いたと思います。宮崎さん、開西中学校の橋本校長、松本教頭をはじめ諸先生方、生徒のみなさん、実り多きすばらしい授業を誠にありがとうございました。